

NPO法人

第77号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安 1578
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

『春の叙勲』～瑞宝単光章 受章に思う～

芦安ファンクラブ会長 清水准一

謹啓

初夏の候 皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて 私ことこの度、図らずも瑞宝単光章の榮譽に浴しましたところ、早速ご懇篤なるご祝意を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

これも偏に、皆様方のご指導とご鞭撻をいただき、活動を共にしてお力添えをいただいた、多くの方々のご支援の賜と、深く感謝いたしております。

今後ともこの榮譽に恥じぬよう、微力ではございますが、一層精励いたす所存でございますので、何卒変わらぬご厚誼を、賜りたく宜しくお願い申し上げます。末筆ながら、皆様の益々のご健勝ご活躍を、お祈り申し上げます。

先ずは略儀ながら、謹んで御礼のご挨拶とさせていただきます。

敬 具 令和2年6月 吉日

コロナ禍の中でこんな返礼を出すのが精いっぱい状況でした。

叙勲内定の朗報が届いたのはまだ春早い静かな頃でした。

当初は5月初旬の東京での授与式に夫婦で参加し、その後皇居での拝謁などの行程が予定されていました。準備の為に前泊することや、その物々しい様子に同伴者はかぶりを横に振りたがっていた。加えて事前に県警で受章報告会もあるというから無理もないことと思う。

ところが、新型コロナウイルス感染防止対策の為にほとんどのセレモニーが中止となり、県警で感染防止対策の中での授与式のみとなってしまった。しかし、多くの方々からお祝いの連絡や胡蝶蘭などが届き、驚きと共に徐々に実感が湧いてくる。

芦安ファンクラブからもアウトドア用の素晴らしいウォッチを贈られ、ありがたくいただきました。お気使いいただきありがとうございます。使いこなせるように努めます。

前置きが長くなりましたが、異例の状況下での大きな記念すべき出来事はこんな感じでした。授賞対象分野からすると、山岳エリア、南アルプス国立公園における適正利用に寄与した事の評価になり、長年の山岳救助活動が認められたとのことでした。

想ったのは、長年一緒に活動を共にしてきた、多くの先輩や仲間たちとの山岳救助や捜索活動の様子が昨日のことの様によみがえり、決して自分一人のことではなく、みんなの代表での受賞であり、この受賞は後に続いて活動してくれる後輩への大きな目印になると思います。



山の中に生まれ、外で故郷の素晴らしさに気づかれ、地元へ帰り、受け皿として裏方として活動できた 70 才の節目をこんな大きな受章で迎えられたことはこの上ない喜びです。

共に活動してきた仲間や、思いのままに活動させてくれた家族に感謝したいと思います。

時折体力の限界を感じるこの頃ですが、自分に来る事を精進しながら、次世代を担う皆さんの活躍を見守っていきたいと思います。コロナ禍が治まり、友とゆっくり喜びの杯を交わせる日が来ることを楽しみにしながら…。

NPO 法人芦安ファンクラブの今後の益々の発展と充実を祈念するとともに、共に歩んできた仲間への感謝の言葉と致します。



「インタープリテーションセミナー」を受講して

芦安ファンクラブ 鈴木一江

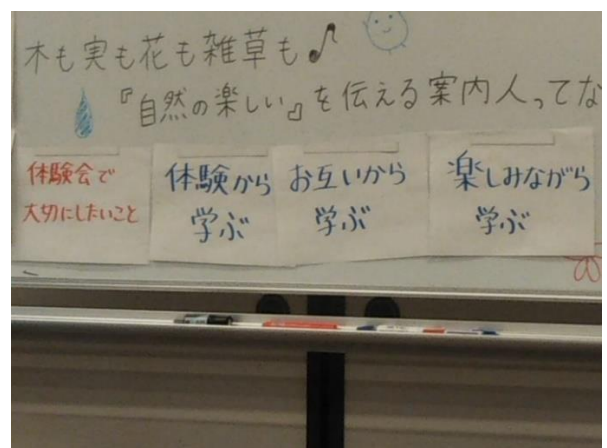
先日、山梨県清里にある（公財）キープ協会で「インタープリテーションセミナー」を受講してきました。会員 4 名に加えて、芦安地域おこし協力隊、集落支援員の方も一緒に参加しました。

インタープリテーションとは、そもそもの意味は異言語間の通訳ですが、この場合は、自然の中で案内、解説をすることを指します。単なる情報の提供ではなく、直接体験や教材を通して事物、事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを目的にします。

「インタープリテーション入門」（小学館）には、『参加者とその場をつなぐ“鎖”の役目を果たし、それまでとは異なる視点から物事を認識するための“扉”を開ける役目を果たす。』と書かれています。そして、最近では、参加者と一緒に価値を作り出す役割も加わっているようです。

今回は、さまざまな手法の中から参加者主体を得意とする、キープさんのセミナーに行ってきました。

当日は、雨が降る霧の中を会場へと向かいました。



はじめは、室内で 4 択の質問にこたえながらお互いを知り、場所にも人にも慣れていく時間。自然と緊張もほぐれ、お互いの知らない一面を聞けたり、思わず話した自分のことにビックリしたり…今いる場所のことについても丁寧に絵や写真で紹介してくれました。



十分に心も体も準備ができた状態で、いよいよ森の中へ！

森の入り口では、大きな板をどかすと、その下には、土の道と巣のようなものが…ここで暮らす生き物たちを想像しました。

※下の動物は、モデルのぬいぐるみです。



少し移動して、好きな色鉛筆を一本選ぶと、自然の中から同じ色を探しました。

次は、緑とひとくくりでもいろんな種類の緑から『同じ色探し』。



雨だからこそ傘を

『葉っぱでデコレーション』！



ちょっと森の中に入り、探し物。

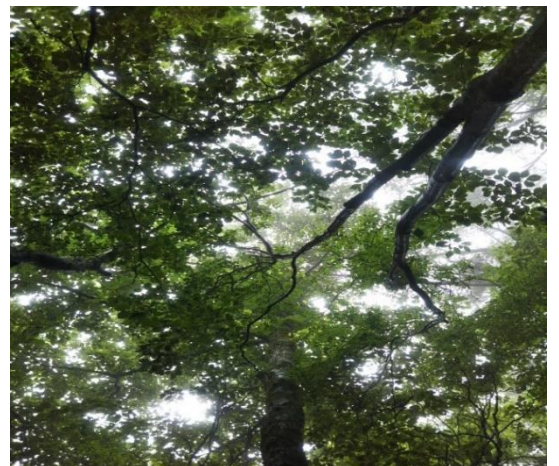
『小人』を手に散策。

※ハリガネのモールで人形を作り、
自分に見立てて森で遊ぶ。



『一人の時間』。

シートに横になって静かに過ごす。



今の気持ちを『漢字一文字で表す』と…



あっという間の森での時間。歩いた距離はたいしてないけれど、どんどん森の奥深くへ入っていくような感じがしました。

見せ方やゲーム性にワクワク、ドキドキして、ちょっとずつステップアップをしていくので、無理なく安心して入り込めました。五感を使う中で、自分の心で？と！が生まれて、もっと知りたいと思いました。他の人のやわらかい発想やロマンティストに刺激を受け、『間違いも正しいもない世界』へ解放されていく感覚が面白かったです。

以下、参加した芦安FC会員の感想です。

●自然と個人の持つ感性を結びつけることの難しさと楽しさを知る事ができました。（小林成正）

●大変勉強になりました。都会から来る子供たちは、カブト虫は電池で動くと思ったり、バッタには触れない子もいると思います。そんな子も自然を楽しむプログラムになっていました。

（堀内訓）

●都会の人にとって、山・森・木・草花・動物・虫などは、身近では感じられない世界かもしれません。また、山と身近に生活している私たちも、その楽しさを忘れてしまっているかもしれません。今回、ゆっくりと森を歩きながら、子供の頃にきっと感じていた、観察と妄想を膨らませて楽しむひとときを、あらためて新鮮に感じたように思います。そして、森に隠れているたくさんの楽しさ面白さを紹介するにも、手法や工夫と心配りが必要であることに気づかされました。有り難うございました。

（西村正人）

●雨も味方につけて、とても気持ちのいい時間を過ごすことが出来ました。また、違う季節にも浸りに行きたいです。4人で参加でき、共通の体験ができたことを今後に活かしていきたいです。素敵な機会をありがとうございました。

（鈴木一江）

早速、セミナーに参加した4名を中心に広河原園地を利用したインタープリテーションプログラムの開発が動き出しています。10月の実施に向けて進めていきます！



芦安小学校夜叉神峠登山を終えて

(3.4年生 2020.9.4)

～『朽ちる』と言うこと～

芦安ファンクラブ 小林成正

「キンコン～キンコン～」腕時計のアラームが鳴る。1982年製ダイバーズウォッチ。もう何年前のことだろう、電池交換で店員さんから「もうこの時計は潜水には使いませんよね。ハイ。防水テストが通りませんでした。潜水には使えません。部品もありません。ハイ。」これで、ダイバーズウォッチが生活防水になってしまった。

自然の中で目覚めるには、ちょっと情緒のない機械音だ。さあ、子供たちを起こすか。子供たちを起こすのには小さいカウベルを使う、「カラン～コロン」非常に心地よい響きだ。

今年も芦安小学校の児童と一緒に夜叉神峠に来た。自然とどう接するのか？感じた自然をどう表現するのか？我々はそれをどう手助けすればよいのか？何年も子供たちと一緒に来ているが永遠の課題だ！？

今年は地べたに寝っ転がって、10分間目を閉じ、何を感じたか、12色のクレヨンを使って絵でも文字でも色だけでも良いから「なんでもよいから書いて」表現してもらった。答えはないのだから自由だ～(清泉寮の研修をちょっとまねてみました)。ただ、導くのは難しいものだと言感。

そして、恒例の夜叉神の森への樹名板の取り付けも行なった。登山道には何枚も樹名板が取り付けられている。裏返して見ると「〇〇ちゃんのだ」「〇〇ちゃんのお兄ちゃんのだ」と声を上げ喜々とする子供たちを見るのは楽しい。しかし、

何枚かはすでに朽ちて樹名すらわからないものもある。針金につるされ木と同化してしまっている。そんな樹名板の針金を外して根本に板を置き「頑張ったね」と声を掛けてやる。何百、何千いや何万の人にこの木の名前を知らしたのか、本当によく頑張った。取り付けた子供も本望だろう。森羅万象ほとんどのものは朽ちる、個人的にはそれでよいと思う。そう、今日来た子供たちが新しい樹名板を取り付けている。何年も何年もこの行為が繰り返されているではないか、あとから続くかぎり、この森から樹名板がなくなることはない。続けることに意味がある。だから朽ちることに意味がある。何年後か何十年後に、この子供達が自然を語るときに、夜叉神の森に来たことが糧になればよいだけだと思う。嫌々来た子もいるかもしれないが、嫌でも自然に触れたことに間違いはない。

嫌々来た子は「小林のおっちゃん嫌いだ」という子もいるかもしれないが、それはそれで良い。これからも、子供たちと一緒にこの森に来たい。体が生活防水になっても来たいものだ。



芦安小学校櫛形山登山を終えて

(5.6 年生 2020.9.10)

芦安ファンクラブ 花輪初代

芦安小学校の5～6年生は南アルプスの雄大な自然に触れ自然に親しむ授業の一環として、毎年栗沢山登山を行っている。今年は諸々の事情で櫛形山に変更になった。ある意味では学校の裏山としてこれほどあってこいの登山は無いかもしれない。

事前学習では櫛形山の動物による食害やら、植物を学んだ。実際に歩いて、対策としての防鹿柵のネットを見たり、その内側と外側での植物の生育の違いなど観察したりした。ロープが張られ草が覆いかぶさるように茂っている道を、アザミの棘にあたりながら痛い！痛い！と歩いたりもした。柵の中と外ではこんなに違う！と驚いているようだった。

植物も 10 種類ほどのカエデを子供たちなりに発見した。

花の百名山として知られる櫛形山。また以前のようにたくさんの花が競い合う山に復活してほしいものだ。四季を通して登ってほしいなぁと思う。

子どもたちにも郷土の山として誇りをもって大切にしてほしいと願った。



【新入会員】

おおやまさひこ 大矢正彦さん

郷土の素晴らしい大自然が残る南アルプスの自然保護活動をされている当会に入会させていただくことになり、微力ではございますが協力させていただけることを大変嬉しく思っています。

一昨年、30年ぶりに山登りを再開しました。北岳は40年ぶりの登頂、世界に類のない南アルプスの自然の豊かさ素晴らしさを再認識いたしました。偶然にも山頂で望月泰孝さんとお会いでき、若かりし頃山登りの基礎を教えて頂いた甲府南嶺会での登攀活動を思い出しました。あの頃は困難な岩と氷を求めて北岳バットレスや甲斐駒赤石沢奥壁、北ア屏風岩等へ。その後、山登りに魅せられ渡仏、欧州アルプスで山岳ガイドをしながら世界各地の山を登っていました。今井通子隊冬季チョモランマ北壁登山を最後に帰国し山登りから距離を置き、都内旅行会社（郵船トラベル）に勤務、海外ハイキングツアーや海外クルーズツアーの商品企画造成手配等を担当し今日に至っています。

今井通子主宰 N.I.A.J 所属（登山ガイドステージⅡ）、甲府市在住、恥ずかしながらこの1月に椎間板ヘルニアを悪化させてしまい、重い荷物が担げず大変心苦しいのですが、まずは早川尾根の整備に注力し頑張る所存です。何卒よろしく、お願いいたします。



ちばしげき 千葉茂樹さん

1974年、岩手県釜石市生まれ。

2000年3月、慶應義塾大学文学部史学科民族学考古学専攻卒業。体育会競走部に所属も半年あまりで退部、以後某洋楽系サークルに出入りしつつ古本屋巡りに時間を費やし留年したりなど、ありがちな学生生活を過ごす。

今年で小屋番生活20年目、牡羊座の左利き。ふつつか者ですが、皆様宜しくお願い致します。



よしざわ なおた 吉澤齊大さん

皆様初めまして！4月に芦安ファンクラブに入会しました、吉澤 齊大（よしざわ なおた）と申します。出身地は東京都です。山梨県には2年ほど前に引っ越してきました。

東京に住んでいた頃は5年間コーヒー屋さんでバリスタを、5年間アウトドアメーカーの直営販売員として働いていました。南アルプスの山々に興味を持ち通い始めたのは、26歳頃からだったと思います。東京で仕事を終え終電で甲府へ向かい、朝一番のバスで入山し、日帰りや泊りの山行をよくやっていました。本当に良く南アルプスに足を運びました。

ちょうど30歳になった時に山小屋とはどんな所なのだろうと思い、アウトドアメーカーを退職し、北岳山荘にて働き始めました。山小屋での仕事はそれまでの僕の生き方と違う新しい経験の連続でした。小屋開けや修繕作業での仕事は、先輩方や職人経験豊富な同僚に工具の使い方や設備の事を教えてもらいながら勉強の毎日でした。

山小屋で働いてみてとても嬉しかった事があります。山に常駐する事によって季節の移ろいで日々変わる山の表情を見られる事です。様々な高山植物が時期を変え咲き、台風前後には驚くような空の色になり、秋になればホシガラスがハイマツの実を岩の上で食べ、小屋閉め時期には北岳が着雪した凛とした景色を見せてくれます。

山小屋で働く楽しさや山の景色に魅せられ北岳山荘で6シーズンを過ごしました。

今年からは、白根御池小屋の所属になりました。訪れてくれる登山者に季節で変わる山の魅力や表情を伝えて、「また来るね!」、「ありがとう!」と言って頂けるようなサービスをしていきたいです。どうぞ宜しくお願い致します。



今年度は、新型コロナの影響で南アルプスの多くの山小屋の休業と登山教室の中止等、ファンクラブの活動が大幅に制限されました。厳しい運営を余儀なくされ、F C通信の発行も縮小されました。

そんな中、会員の皆様が退会をせずに会費を払って頂き、また、応援のメッセージをたくさん寄せて下さった事に、会長以下心から感謝申し上げます。

また、所沢市の賛助会員の小林圭一さんより多大なご寄付を頂きました。

どうもありがとうございました。